

Works with ColorEdge CX240-CNX

ColorEdge CX240-CNXでCDジャケットをデザイン

人気ヒップホップグループHOME MADE 家族のニューアルバム「3RISE」のジャケットデザイン。カラーエッジ新シリーズを使用し制作していただき、そのワークフローを取材した。

02 カラーエッジを使用してデザイン

仕上がりモニターでシミュレーションしながら、自然なフレアを出すべく、色味を調整していく。イメージを繊細に具現化するには、表示するモニターの階調表現力や色再現力が不可欠。カンパとのマッチングもでき、効率よくDGSへデータ渡し



初校



カンパとの差もほとんどなく刷り上がった。より暖かみを加味すべく、色調補正の指示を出す

01 “サンライズ”をテーマに撮影

アルバムタイトルの「3RISE(サンライズ)」から太陽光をイメージし、感光した風合いで撮影



03 DGSにて製版作業

DGSで同じ色管理のもと、製版作業へ移行。イメージを共有できているため、その後の補正も実にスムーズ



再校



4C+ハイグロスニスで印刷。指示通り再校で美しい仕上がりに。何度も色校を繰り返さずに完成

04 CDジャケット完成

シビアな色管理のもと、プロファイルに忠実に印刷された完成版(初回限定版)。モニター上で確認した色味どおりに仕上がるため、クリエイティブティを存分に発揮できる



信頼のおける色管理でクリエイティブ環境を向上

EIZO「ColorEdge」新シリーズでカラーマネジメントを極める

Vol.1 株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ編

写真=三浦希衣子 Miura Kieko 構成・文=横田可奈 Yokota Kana



田中勤郎
Norio Tanaka

1966年生まれ。アートディレクター。CDジャケットを中心にツアーグッズ、広告などを手がける。代表作にandrop、the brilliant green、CHEMISTRYなど多数



右から生産管理本部DGS次長の二之方敦氏、クリエイティブ本部のアートディレクター、田中勤郎氏、デザイナーの吉田航氏



現在のワークフローは、モニターの色管理を徹底するため、毎日手作業ですべてのモニターを同じ設定値にキャリブレーションしている

グラフィックデザイン、デジタルフォト、CAD、CGアニメーション、出版、印刷。デジタル・ワークフローが一般化したクリエイティブ現場では、モニターの表示する色がクオリティの効率化の鍵を握る。

これらの要求にハイレベルで応えられるモニター「EIZO ColorEdge」。本誌では3号連続で、2012年新製品「ColorEdge(カラーエッジ)」の魅力伝えるべく、クリエイティブの現場に潜入。

第一回は、株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズのアートディレクター、田中勤郎氏のCDジャケット制作現場に伺った。

新製品の使用感について

音楽ジャケットデザインはもとより、ゲームや映像作品のパッケージ、広告・販売促進ツール、ウェブサイトを制作、そして製版、印刷までを担う株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ。多くの印刷物を手がける同社では、10年前から生産管理本部のデジタルグラフィックススタジオ(DGS)にカラーエッジを導入し、フォトレタッチ、製版工程において徹底した品質管理を行っている。

今回は、生産管理本部DGS次長の二之方敦氏をはじめ、アートディレクター、田中勤郎氏とデザイナーの吉田氏に新・カラーマネジメント液晶モニター「ColorEdge CX240-CNX」を体験してもらい、その使用感を伺った。

二之方 弊社では、すでに前モデルのColorEdge G241Wを導入しており、クリエイティブ本部のデザイナーが作業するモニターもすべてEIZOの汎用モニター「EIZOscan」の上位機種を使用している。基本的には色管理はスムーズに行われています。提携している印刷会社社で、独自のプロフィールを共有し、運用しているので、仕上がりにイメージを正確にモニターで確認することが出来ます。クリエイティブ本部で出力するカンパ、DGSで出力する校正紙、印刷会社で出力する最終印刷物が、ほぼマッチングできていますので、刷り直しのコスト削減につながっています。

田中 デザイン作業はいつもEIZOscanを使用しているので、今回ColorEdge CX240を使用してみても、ほぼ違和感はなかったのですが、やはり格段に色がキレイですね。階調表現も滑らかですし、どの角度から見ても、白浮きや色変化がない。黒色がとても引き締まってると思います。

吉田 Macの Cinema Display と比べると、画面に映りこみがないことや色味の違いはとも感じますね。また、カラーエッジは、カラーマッチングに優れているので、今まで以上にデバイス間での作業がスムーズになりそうですね。

田中 普段からモニターの表示を信頼して作業できているので、その後の工程でもイメージの共有が計りやすいです。色校も最小限で済みます。短納期の仕事も多いですからね。現状にストレスはありませんが、カラーエッジほどの色再現・階調特性を持つモニターをデザイナーも導入すれば、クリエイティブのクオリティアップにも繋がります。

二之方 新製品は再調整が自動でできるので、かなり効率化が図れそうです。

田中 一度外付けセンサーで調整した値を記憶して以後自動で調整するセンサーが搭載されているから、再調整のたびにセンサーの取り付け取り外しの手間を省けて済む。実は、毎日キャリブレーションを行っているんですね、手作業で(笑)。

吉田 はい。いつもデザイナーが交替でモニターの前に張り付いて管理しているので、この効率化は感激ですね。

田中 今回、HOME MADE 家族のニューアルバムのデザインをカラーエッジを使用して制作させていただきました。最初にイメージした通りの美しい色をモニターで確認しながら創り込めたので満足しています。